



日本ワクチン学会 ニューズレター

vol.9

目 次

1. 年度始めのご挨拶 理事長 清野 宏 ……2
2. 第8回日本ワクチン学会学術集会を主催して 第8回学術集会会長 富樫武弘 ……2
3. ワクチン関連トピックス
 - 1) トピックスⅠ『2005年4月からBCGの接種方法の変更』 ……3
 - 2) トピックスⅡ『昨年10月から予防接種法改正に向けた
予防接種検討会が開催されています。』 ……4
 - 3) トピックスⅢ『近隣諸国における髄膜炎菌性髄膜炎の流行
～2004-2005年～とわが国の対策』 ……4
4. 第9回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ 第9回学術集会会長 奥野良信 ……5
5. 会員会告
 - 1) 2004年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録 ……5
 - 2) 第8回日本ワクチン学会総会議事録（2004年10月8日） ……7
 - 3) 重要なお知らせとご案内 ……8

§ 2005年日本ワクチン学会の新しい第一歩へ

会員各位

理事長 清野 宏

2005年は日本ワクチン学会にとって希望にあふれた新しい第一歩を踏み出す年です。昨年は、突然降りかかってきた学会事務センター破綻という問題に、沢山の学会が金銭的、事務的被害にあいました。当学会もその一つでしたが、理事会メンバーそして会員の皆様方の御理解と御支援でその難局を乗り越えることが出来ました。心から御礼申し上げます。そのような困難な時でも、世界に向けて新ワクチン戦略前進を目指す日本ワクチン学会には明るいニュースがありました。財団法人阪大微生物病研究会のご尽力・御好意により高橋記念基金を基盤とした「日本ワクチン学会高橋賞」の設立が決まりました。同賞選考委員会の立ち上げ準備も進んでいます。この賞が皆様方の日夜を徹した研究・開発にとって励みになることを期待しております。また、このような機会を設けていただいた大阪大学名誉教授高橋理明先生と財団法人阪大微生物病研究会に会員を代表しまして御礼申し上げます。これを機会に本学会の活動が、日本そして世界のワクチン学関連研究とその開発に向けてさらに飛躍するよう、会員の皆様方とご

一緒に日々精進していきたいと思えます。国内はもとより世界に輝く免疫学、ウイルス学、細菌学、寄生虫学、分子生物学、生物工学、ゲノム医科学などに代表される日本の基礎医学・生命科学の力が結集され、「新しいワクチン開発に結びつく戦略とその実施ができる学問的理論形成をする場」として日本ワクチン学会が中心的役割を果たしていかなければいけません。基礎・臨床・製造によるトライアングルネットワークを形成し、日本そして世界のワクチン学と感染予防に貢献できるような環境作りを、会員の皆様とご一緒に、本年度も進めていきたいと考えております。昨年と同様に再度、「ローカルにならない、こじんまりしない、日本以外にも目を向けて」を思い出し、日本ワクチン学会が世界に向けてさらに飛躍するよう国内外の基礎・臨床・製造関連研究・学術関連団体や研究者との交流を活発にしながら、会員の皆様とご一緒に前進していきたいと思えます。

会員一人一人の皆様とご一緒に進む日本ワクチン学会に夢と希望を抱いて2005年度のご挨拶にかえさせていただきます。

§ 第8回日本ワクチン学会を開催して

第8回日本ワクチン学会会長
市立札幌病院長 富樫 武弘

平成16年10月9日（土）、10日（日）の両日第8回日本ワクチン学会を札幌コンベンションセンターで開催した。初日の午後に台風の襲来があったものの、全国から約450名の参加を頂き、一般演題61題と双方とも過去最高となった。

特別講演はスウェーデン王立アカデミーのErling Norrby教授による「Serendipity and Nobel Prizes」と英国国立生命基準制御研究所のDr. Philip Minorによる「Quality Control of Vaccine,

from a viewpoint of international harmonization」であった。

シンポジウムは企画・座長の北大獣医喜田宏教授による「人獣共通感染症とワクチン」と、企画・座長の山崎修道元国立感染症研究所長による「日本におけるAIDSワクチン開発の現状」であった。

ワークショップは企画・座長の岡部信彦国立感染症研究所感染症情報センター長による、「麻

「ゼロ作戦」であり、米国へのはしか輸出国と非難されているわが国の現状を分析して、行政の取り組みと、沖縄と北海道のゼロ作戦の実績を報告した。総会で採択された「はしかゼロアピールin Sapporo」を宣言した。

” はしかゼロ” アピールin Sapporo

一. はしかは子どもたちにとって重大な病気である。

す。

一. はじめての誕生日にはしかワクチンを。

一. はしか（風疹も）ワクチンの二度接種を。

平成16年10月10日

日本ワクチン学会

理事長 清野 宏

第8回会長 富樫 武弘

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

2005年4月からBCGの接種方法が変更になります。

2005年3月まではツベルクリン反応陰性者にBCG接種が実施されてきたが、4月以降は直接BCG接種が導入されツベルクリン反応によるスクリーニングが実施されなくなる。そのため、結核菌に感染したことがある人にBCGを接種した場合に起こるコッホ現象（健常者がBCGを初めて接種した場合は、接種後10日頃に針痕部位に発赤が生じ、接種後1月から2月までの頃に化膿巣が出現する。一方、結核既感染者にあっては、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び針痕部位の化膿等を来し、通常2週間から4週間後に消炎、瘢痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあり、これをコッホ現象という。これは、BCG再接種において見られる反応と同

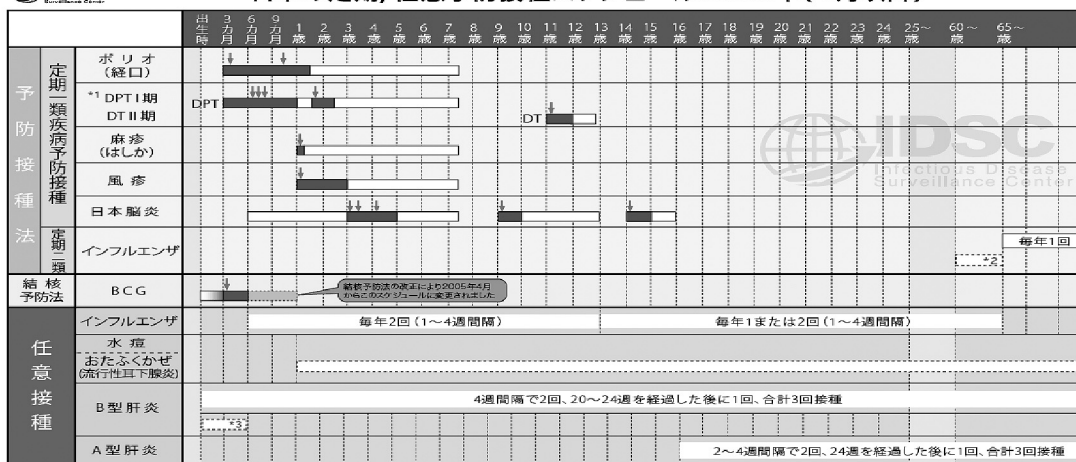
一の性質のものが結核感染後の接種において比較的強く出現したものである。：平成17年1月27日付け 厚生労働省健康局長通知（健発第0127005号）定期の予防接種の実施について 別添 予防接種実施要領より）を届け出るシステムが導入される。接種時に保護者への十分な説明が求められる。

また、定期接種の対象年齢が4歳未満であったところが生後6か月未満に短縮される（図1）。生後3か月以内での接種は、先天性免疫不全症の患児に接種してしまう危険性を考慮して、日本小児科学会では生後3か月～6か月での接種を勧め



日本の定期/任意予防接種スケジュール2005年（4月以降）

ver. 2005.02



↓ 接種 ■ 通常接種が行われている年齢 □ 接種が定められている年齢 □□ 接種年齢 □□□ 母子感染防止事業 ■■■ やむを得ない事情を有する場合のみ

*1 D:ジフテリア、P:百日咳、T:破傷風 を変す。

*1 60歳以上の産婦の母であって一定の心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能又はヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能の障害を有するもの

*2 妊娠中に検査を行い、HBs抗原陽性、HBe抗原陽性、陰性の両方とも母体からの出生児は、出生後できるだけ早期及び、生後2ヶ月にHBe抗体グロブリン(HBcG)を接種、ただし、HBe抗原陽性の母体から生まれた児の場合は2回目のHBcGを省略しても良い。更に生後2.5か月にはHBcGを接種する。生後6ヶ月後にはHB抗原及び抗体検査を行い必要に応じて任意の追加接種を行う（健康保険適用）。

© Copyright 2005 IDSC All Rights Reserved. 無断転載・改竄を禁ずる。

トピックスⅡ

昨年10月から予防接種法改正に向けた予防接種検討会が開催されています。

平成18年（2006年）の予防接種法改正に向けて、平成16年（2004年）10月15日から概ね月1回の頻度で予防接種検討会が開催されている。検討会の内容は厚生労働省のHPに議事録が掲載されており、そこに詳しく記載されている。

第一回議事録 [HYPERLINK](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt)

"<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt>"

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt>

第二回議事録 [HYPERLINK](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt)

"<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt>"

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt>

平成18年（2006年）の予防接種法改正に向けて、平成16年（2004年）10月15日から概ね月1回の頻度で予防接種検討会が開催されている。検討会の内容は厚生労働省のHPに議事録が掲載されており、そこに詳しく記載されている。

第一回議事録 [HYPERLINK](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt)

"<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt>"

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/10/txt/s1015-3.txt>

3.txt

第二回議事録 [HYPERLINK](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt)

"<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt>"

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/11/txt/s1124-5.txt>第三回議事録 [HYPERLINK](http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/txt/s1222-1.txt)

"<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/txt/s1222-1.txt>"

<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2004/12/txt/s1222-1.txt>

今後随時、公開される予定。

第一回目はこの検討会についての全体的な説明と、今後の討議事項の予定が示された。第二回目は麻疹ワクチンと風疹ワクチンについて、第三回目はDPTワクチンとHibワクチンについて、第四回目はポリオワクチンについて、第五回目はインフルエンザワクチンについて、第六回目は水痘ワクチン、おたふくかぜワクチン、肺炎球菌ワクチンについて、第七回目は日本脳炎ワクチンについて討議され、中間報告が出される予定。その後も数回、継続される予定である。

トピックスⅢ

近隣諸国における髄膜炎菌性髄膜炎の流行～2004-2005年～とわが国の対策

わが国では、髄膜炎菌による細菌性髄膜炎は非常に稀な感染症として認識されているが、海外では、発展途上国から先進国に至るまで患者がみられ、WHOによれば毎年50万人の患者と5万人の死亡者が報告されている。関連記事を以下に提示したが、中国、フィリピン等の近隣国での髄膜炎菌性髄膜炎の流行は、対岸の火事ではない。決して稀な疾患ではないという認識を持ち、国内での髄膜炎菌性髄膜炎の発生動向の把握と、流行地へ渡航する場合の注意が必要である。現在、わが国にはワクチンがないため、渡航前に医師が個人輸入したワクチンを接種してもらおうか、渡航先でワクチン接種を受けないか。（病原微生物検出情報（月報：IASR）

の2005年2月号より抜粋）

IDWR2005年第3号、第4号海外感染症情報より [HYPERLINK](http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/idwr/idwr2005/idwr2005-04.pdf)

"<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/idwr/idwr2005/idwr2005-04.pdf>"

<http://idsc.nih.gov/idwr/kanja/idwr/idwr2005/idwr2005-04.pdf>

●中国での流行性髄膜炎発生について

[HYPERLINK](http://www.moh.gov.cn/news/more_index.aspx?tp_class=C601&url_addr=/news/sub_index.aspx)

"http://www.moh.gov.cn/news/more_index.aspx?tp_class=C601&url_addr=/news/sub_index.aspx"

http://www.moh.gov.cn/news/more_index.aspx?tp_class=C601&url_addr=/news/sub_index.aspx 中国衛

生部 2005年1月31日、2005年2月5日
2004年11月から2005年1月30日までの、中国全土の髄膜炎菌性疾患報告数は546例であった。2005年以來、福建省、海南省、チベット自治区を除く各省で報告があり、上位5位は安徽省、河南省、河北省、江蘇省、四川省であった。1月の中国全土の髄膜炎菌性疾患報告数の累計は258名で、16名が死亡した。28の省、自治区、直轄市から報告があり、安徽省では21県から49例、河南省では23県から30例、河北省では17県から19例、江蘇省では16例、四川省では16例で、その他の省からは各省10例以下の報告があった。

●フィリピンでの髄膜炎菌性疾患—更新

WHO/CSR 2005年1月28日 2004年10月1日～

2005年1月28日に総計98名（バギオ市74名、Mt. Province 22名、Ifugao2名）の髄膜炎菌性疾患患者と、32名の死亡者（致死率33%）が報告された。フィリピン保健省と地方政府保健当局はGlobal Outbreak Alert and Response Network (GOARN) チームの支援の下、流行を制圧するためにMountain地方とBenguet地方に多分野対策センター（Provincial multidisciplinary operations Centre）を設置した。髄膜炎菌性疾患の検体採取と検出目的で、検査室の検査受入能力と患者管理が強化された。コミュニティでの集中的なサーベイランスと接触者追跡調査が実施され、詳しい疫学調査が進行中である。

§ 第9回日本ワクチン学会学術集会のお知らせ（第1報）

第9回日本ワクチン学会学術集会を、平成17年10月15日（土）、16日（日）の2日間、大阪国際交流センターにて開催することとなりました。シンポジウム、特別講演等を企画していますが、一般演題が充実していないと魅力あるワクチン学会にはならないと考えております。是非、多くの方々のご参加と、演題発表をお願い申し上げます。

会 長：奥野良信（大阪府立公衆衛生研究所、感染症部長）

会 期：平成17年10月15日（土）、16日（日）

会 場：大阪国際交流センター

〒543-0001 大阪市天王寺区上本町8丁目2番6号

TEL：06-6773-8181、

FAX：06-6773-0777

事務局：〒537-0025 大阪市東成区中道1丁目3-69

大阪府立公衆衛生研究所ウイルス課 大竹 徹

TEL：06-6972-1321（内：376）、

FAX：06-6972-2393

E-mail：otake@iph.pref.osaka.jp

§ 2004年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録

日 時：平成16年6月29日（火）15：00－17：00

会 場：東京大学医科学研究所 総合研究棟4階議室

出 席：庵原俊昭、岡 徹也、奥野良信、喜田 宏、城野洋一郎、加藤茂孝、加藤達夫、高橋理明、高見沢昭久、中山哲夫各理事

清野 宏（理事長）、倉田 毅（監事）多屋 馨子（岡部信彦推薦理事代理）

欠 席：岡部信彦（推薦理事）、神谷 齊（監事）、武内可尚、富樫武弘、廣田良夫各理事

記 録：中川庸幸（日本学会事務センター）、幸 義和（事務局）

報告事項

1. 新理事会発足にあたり、各理事、監事、事務局の紹介があった。
2. 一般経過報告
清野理事長及び中川氏から、会員数、ワーキンググループの活動を含む一般経過報告があった。
3. 事役職担当
清野理事長から副理事長として加藤達夫理事、会計担当として岡 徹也理事のほか高見沢昭久理事、ニューズレター等広報担当として岡部信彦理事（代理出席 多屋馨子氏）が提案され承認された。
4. 平成15年度決算報告
岡 徹也理事より報告があり承認された。
5. 平成15年度会計監査報告
倉田 毅監事から監査報告があった。
6. ニュースレター
年2回発行されているニュースレターの第8号が6月25日発行された。これらのニュースレターは以下の日本ワクチン学会のホームページからもダウンロードできる。
7. ホームページ
本学会のホームページ（<http://edpex104.bcasj.or.jp/jsvac/>）は昨年12月Yahoo!Japanのサイトに登録された（Yahoo! カテゴリから健康と医学>医学>免疫学>ワクチン>日本ワクチン学会で本学会ホームページへ）。

審議事項

1. 日本ワクチン学会高橋賞
財団法人阪大微生物病研究会寄贈による高橋記念基金によって運営される日本ワクチン学会高橋賞創設について趣旨が清野理事長と高橋理明理事より説明された。それに基づいて本賞の創設について審議され承認された。今秋開催予定の総会にて日本ワクチン学会高橋賞について報告・了承をはかる。
2. 会則の改訂
前理事会からの継続審議事項であった会則記載事項について検討し了承された。
 - 2-1. 推薦理事記載事項
付則1を以下の記載へ改訂する。
「理事長権限により、任期2年で3名以内の理事（理事長推薦理事）を任命することができる。推薦理事は理事会の議決権を有し、改選時には被選挙権を有しない。重任1回は妨げない」
 - 2-2. 会費滞納者記載事項
以下の会則の付則1を追加する。
「3年間会費を滞納したものは、理事会の議を経て除籍するものとする」
3. 日本ワクチン学会将来計画
清野理事長より本学会内外の若手を中心に7-8名を集め、日本ワクチン学会発展に向けて建設的に提案を行う「将来計画委員会」を組織する。人選は理事長に一任することで了承された。ワクチン開発に向けての研究体制やワクチンの啓蒙活動についての日本ワクチン学会の指導的立場確立に向けての行動計画などについての提言を期待する。
4. 学会誌Vaccine誌との関係
日本ワクチン学会誌発行についての下記の提案があった。
 - (1) 年1-2回和文誌発行
 - (2) 本学会のホームページ上に公開するe-publication

(3) Vaccine誌を日本ワクチン学会の学会誌とする。

5. 他関連学会との交流

清野理事長より日本ワクチン学会のさらなる活性化を目指して他関連学会との交流ができないかとの提案があった。例えば免疫・感染・ワクチン週間と銘打ち、将来的には日本ワクチン学会が先導的役割をになって、日本免疫学会、日本ウイルス学会、日本細菌学会との合同学術集会を同時開催することなどが提案検討された。日本ワクチン学会と同程度の規模の関連学会（例えば日本臨床免疫学会）との合同開催なども検討された。

§ 第8回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：平成16年10月10日（日）13：30－14：13

会 場：札幌コンベンションセンター「特別会議場」

総会議長：第8回日本ワクチン学会学術集会会長 富樫武弘

1. 報告事項

1) 一般経過報告

清野 宏理事長から会員数、ワーキンググループの活動を含む一般経過報告があった。

2) 日本学会事務センター破綻

清野 宏理事長から学会事務センター破綻の経過、状況についての説明があった。

2. 議 事

1) 平成15年度決算、平成15年度会計監査

岡 徹也理事から平成15年度決算案報告がなされ、引き続き倉田 毅監事から平成15年度会計監査報告がなされ、平成15年度の決算案が承認された。

2) 平成16年度会計中間報告

岡 徹也理事から平成16年度会計中間報告がなされ、学会事務センター破綻により約191万円の損失金ができることが説明され承認された。

3) 平成17年度予算案

岡 徹也理事から平成17年度予算案の報告がなされ承認された。

4) 会則改訂について

清野 宏理事長より日本ワクチン学会付則についての改訂案が報告され承認された。

5) 高橋賞の創設について

清野 宏理事長から日本ワクチン学会高橋賞創設の説明がなされ承認された。

6) その他

清野 宏理事長から学会事務委託およびホームページ再開の報告があり承認された。また理事長から魅力のある日本ワクチン学会を創造していくために情報の国内外への発信、横断的学術交流、学会誌発行等の提案があった。

3. 第10回学術集会会長の推挙

清野 宏理事長から第10回学術集会会長として大阪大学の山西弘一教授が推挙され承認を得た。

4. 次期会長挨拶

第9回日本ワクチン学会学術集会 奥野良信 次期会長より挨拶があった。

5. 第8回学術集会会長挨拶

第8回日本ワクチン学会学術集会 富樫武弘 会長より挨拶があった。本大会初日に企画されたワークショップ「麻疹ゼロ作戦」を受けて、本学会として“麻疹ゼロの宣言”が富樫会長よりなされた。

§ 重要なお知らせとご案内

日本ワクチン学会会員各位

日本ワクチン学会
理事長 清野 宏

平素より本会の活動にご協力いただき有難うございます。

さて、4月1日より個人情報保護法が施行されました。それに伴い学会活動のためご登録いただいております皆様の会員登録情報につきましても当然ながら同保護法の対象となります。

本年は理事改選年度となり、例年選挙書類へ選挙名簿を兼ねて会員名簿を同封し、役員選挙を行っておりましたが、今年の会員名簿は調査を行わず現状の登録情報にて作成を行う年でもありました。

4月18日に開催されました2005年度第1回理事会におきまして、掲載内容の可否を確認せず、会員名簿を発行することは取りやめ、理事選挙につきましては、選挙名簿を別に作成しご投票をお願いすることになりました。

会員名簿につきましては、理事選挙書類と一緒に掲載内容の確認・修正のため調査票をお送りさせていただきますので、必ず内容をご確認いただき本会連絡先までご返答をお願い致します。

これに関連し、第9回日本ワクチン学会学術集会発表および参加に関し、本会理事会として以下の内容を決定いたしました。

- 1) 発表に際し、個人が特定される可能性のある症例の名前、イニシャル、ID番号は発表なされないように御願ひ致します。
- 2) 会場内での写真・ビデオ撮影、ポスター発表での写真・ビデオ撮影については、本会として禁止いたします。なお、学会指定の係員については除きます。

発表者のプライバシー及び発表内容の優先権の保護を守り且つ学会の活性化に努めて参りたいと存じますので、皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

日本ワクチン学会ニュースレター 第9号

2005年4月25日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒108-8639港区白金台4-6-1 東京大学医科学研究所炎症免疫学
日本ワクチン学会理事長 清野 宏

<http://www.jsvac.jp/>

<入退会・住所変更・年会費>

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町519番地
洛陽ビル3階 (株)春恒社 学会事務部内

日本ワクチン学会係

TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176/ E-mail：jsvac@shunkosha.com
